医療連携推進コーディネーターの取り組み

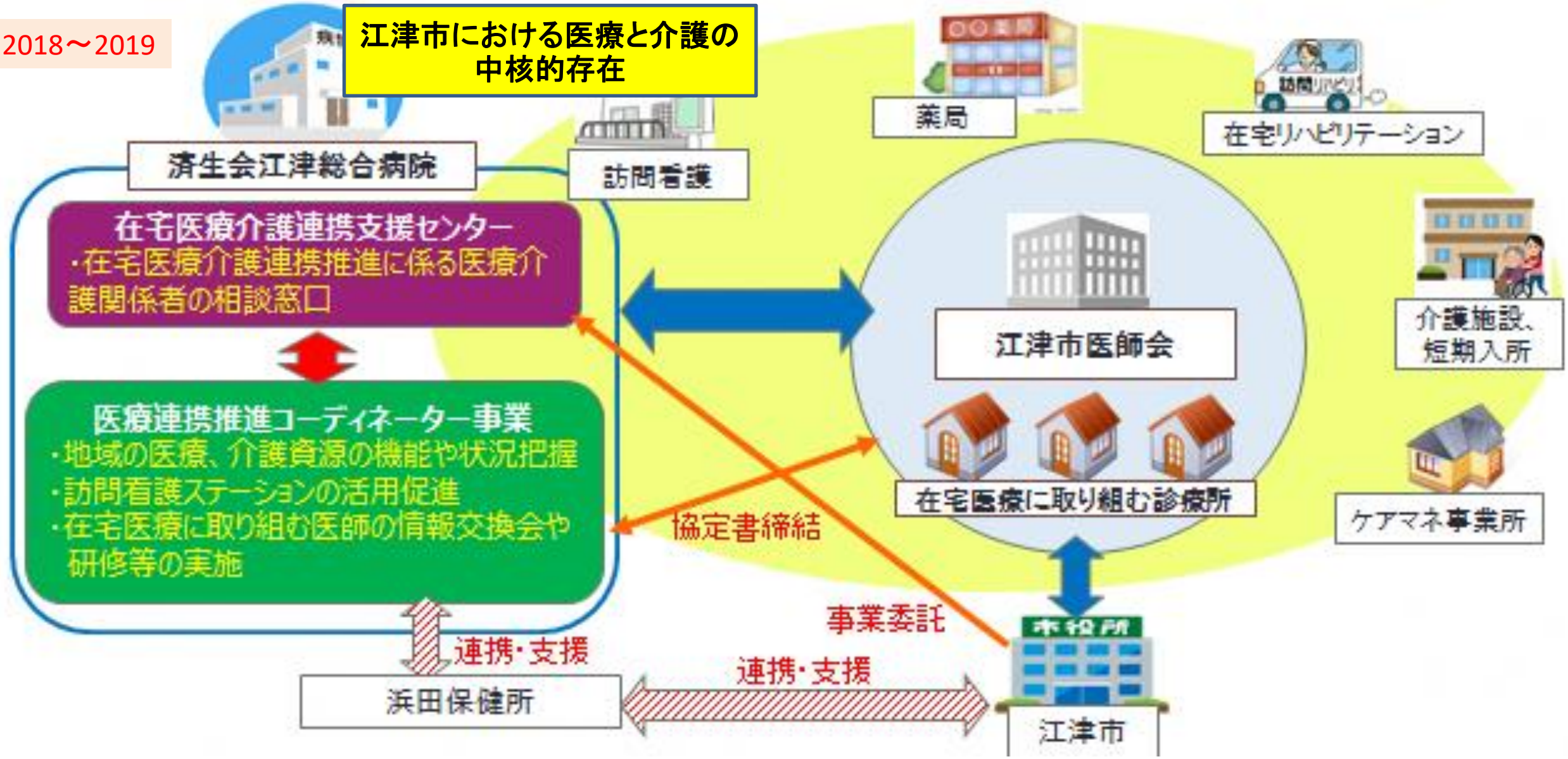
島根県済生会江津総合病院
地域医療連携室
沖原典子

２０２１年2月１０日

医療連携推進コーディネーター配置事業

江津市医師会と済生会江津総合病院の連携イメージ（一部改変）

2018～2019



事業開始前に決めた3年間の方向性

江津市医師会　医療連携推進コーディネーター配置による取組計画概要

2018年8月　担当者打合せ会資料

目　　的：地域医療構想の具体化に向けて、地域の病床分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保

事業内容：　　済生会江津総合病院に「医療連携推進コーディネーター」を配置（委託）し、在宅医療の供給についての検討や、病院・行政等との調整を行う

期待する効果：医師会の在宅医療供給検討体制の構築　例）在宅医療に関する検討の場設置、他職種合同症例検討の場設置、病診連携促進（連携ツール作成など）

事業の柱		2018年度 １年度目＜10月～＞	2019年度 ２年度目	2020年度 ３年度目	2021年度 ４年度目＜～9月＞	目指す体制（案）
１　地域の医療や介護資源の機能の把握	地域医療資源の把握と情報提供	「浜田圏域在宅医療・介護連携のための関係機関機能情報一覧（H29）」の活用	※情報更新の検討			・最新の適切な情報提供による、相談対応の実施
	新たに訪問診療に取り組む医療機関への相談・助言	相談窓口（振り分け・つなぎ）設置				
２　訪問看護ステーションの活用促進	訪問看護の役割や連携等の理解を深める医師向け研修会		訪問看護利用症例検討会等の開催	訪問看護利用症例検討会の開催 ※職種拡大	症例検討会の定着	・訪問看護活用の定着による在宅医療の促進
	★症例報告・症例検討（訪問看護利用にかかる症例）					
	★地元病院、訪問看護ステーションとの連絡調整	定期的、または随時連絡会の開催				
３　在宅医療に取り組む医師による、連携に向けた意見交換会の開催	在宅医療に取り組む医師による連携に向けた意見交換	在宅医療に取り組む医師へのヒヤリング 済生会病院と医師会の連絡会開催	在宅医療に取り組む医師へのヒヤリング 済生会病院と医師会の連絡会開催	在宅医療に取り組む医師へのヒヤリング 済生会病院と医師会の連絡会開催	医師会内に検討の場の設置	・体制等検討の場設置 ・在宅医療に取り組む医師の負担軽減 ・江津医師会としての在宅医療提供体制検討の体制づくり
４　効率的で質の高い在宅医療提供体制の構築	24時間対応の在宅医療提供体制構築に向けた検討	保健所、市主催会議等への参画による現状・課題共有	医師会、行政等との検討			
５　病床の機能分化・連携に向けた調整への参画	病床機能分化・連携について病院や関係機関、行政と課題共有し検討		保健所、市主催会議等への参画による現状・課題共有			

医師会の中での協議体制

①ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが把握した課題や実情をまず、医療連携推進ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰと事業担当リーダー（理事）1名と協議し、対応策（案）を検討する。

②「コア会議（医師会の事業担当3名等の打合せ）」で課題・実情・対応策（案）について具体的協議を進める。

③コア会議で検討した結果や方向性などを「理事会」で協議し、決定事項を「医師会員」へ発信する。

④具体的な事業展開を進める。

⑤事業実施した結果（評価）も上記の流れで協議を進め、この体制が「らせん状事業展開」を可能にしている。

江津市医師会医療連携推進コーディネーター事業の今後の進め方
～全医師会員に実施したヒアリング結果より～

目指すところ

在宅医療提供体制の維持、検討体制の構築

取組の柱

- ヒアリング結果の情報発信
- 新規開始訪問診療医サポート
- 訪問診療医の負担軽減
- 24時間体制の在り方検討
- 済生会病院との連携強化
- 他職種との連携強化

具体的な取組案

- 訪問診療開始医への助言、情報提供
- 訪問看護師・リハ職との意見交換会
- 訪問診療医間の連携・交流
- 訪問診療について市民への啓発
- 済生会病院との意見交換
- 症例検討・事例紹介
- ケアマネとの意見交換
- 情報共有ツールの検討

コーディネーターが、聞き、動き、つなぎ、調整します！

具体的な取組

Ⅰ　在宅医療提供体制の現状把握

①医師会員へのヒアリング調査（訪問診療の現状把握と今後の予測等）

2018.12～2019.2

②訪問看護・ケアマネとの連携強化

⇒訪看STへのヒアリング・ケアマネ部会・研修会への参画

2019.4～

③関係機関情報一覧表作成（在宅医療・療養に関する機能を調査し、作成）

2019.8＆2020.8

④訪問診療開始予定（また開始して数年以内）の医師への個別ヒアリング

2019.9～10

Ⅱ　在宅医療提供体制の課題と解決策の検討と実施

①コア会議・理事会・保健所江津市連絡会　2018.11～

具体的な取組

Ⅲ　情報交換・意見交換・情報発信

①市との協働による多職種連携事例検討会　2018.12～2020.2

②訪問診療医師会員意見交換・勉強会　2019.7～（年3回）

在宅療養や訪問診療を進める上での課題の検討

③「〇〇先生と顔なじみになる会」　2020.2～

④コーディネーター通信　2020.6～

Ⅳ　検討の場の設置や病診連携促進

①病診連携協議会　年2回開催

②症例検討会　2019年～

③病院医師と地域開業医との意見交換会　2020.9～

④市民啓発　2021.4以降

医療連携推進コーディネーター事業第１０回コア会議

日時：R2年12月1日（火）19時～20時
場所：済生会江津総合病院第1応接室
売り：医療連携推進ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ事業を医師会と具体的に協議する場として設置。江津市医師会代表3人、事務長、保健所、ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等で構成する。この場で協議した結果を医師会の理事会にかけ、医師会員に発信する。事業の方向性、評価などを行い、らせん状の事業展開が可能となる。

【成果・課題】
・「船津先生と顔なじみになる会」について好評であったことを報告。次は、１２月に應儀先生と顔なじみになる会を開催予定。
・1月に岡田先生、2月に沖田先生の予定。
・医師会員・病院医師との意見交換会については、定期開催も検討することとなる。
・意見交換会の第3回目は、訪問看護・訪問リハと実施する。
・看取り代診医の要綱変更（死体検案書）、当番医の待機時間について概ね原案通りとなる。
・退院情報について、11月中旬より、病院から送っていることなど報告。

江津市医師会１２月理事会（医療連携推進コーディネーター事業）

日時：R2年12月8日（火）18時45分～１９時１５分
場所：江津市医師会館
売り：10～11月末までの活動報告と今後の取組について、医師会理事会の場で承認及び協力依頼を行う。

【確認及び承認事項】
・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ通信の１２月通信の内容について確認と了承。
・看取り代診医紹介システムの要綱改正と登録医の待機時間について、了承。
・顔なじみになる会について、舩津先生(11/12)は好評に終わり、12月は應儀先生と会を開催予定
・1月岡田先生、2月沖田先生と開催予定となる。
・医師会員と病院医師の意見交換会は好評に終わり、定期開催も検討する。
・第3回目は当初の予定通り、訪問リハ・訪問看護と実施する。
・まめネットの同意について、閲覧希望機関について江津市内の機関であれば複数記載可能となり、各機関でまとめて同意を取ることが承認された。

第６回應儀先生と顔なじみになる会

日時：R2年１２月１５日（火）１４時00分～１５時３０分
場所：應儀医院　外来待合室
売り：診療中の先生に連絡が取りにくく、連携不足となってしまっている現状があり、「先生と顔なじみになる会」を企画し、医師とケアマネージャーとコミュニケーションを図り、連携性を向上させることを目的として開催。
キャッチフレーズ：
「日頃、お医者様とお話をすることに苦手意識はありませんか？先生の前で思うように話せない、電話をするときにドキドキするなどありませんか？その思い、解決に向けてお手伝いします！應儀先生があなたのために時間を取ってくださいます。またとないこの機会に顔なじみになりませんか？」

・済生会の医師は14名しかいない。この状況の中で診療を続けるということは非常に疲れている。開業医の医師もケアマネもみんなで病院医師を支えるようにコーディネートしていかないと地域医療が疲弊してしまう

【成果】
・総勢１１人で開催。
・先生の医療や介護に対する思いなど伺い、地域開業医の置かれている立場や地域住民から絶大な信頼と期待を背負って、診療されている様子が非常によくわかった。
〇先生のお話から一部紹介
・「寄り添うような支援」を心がけている。
・在宅で介護するということは、患者だけでなく、患者を取り巻く家族などもひっくるめて診ていくこと。
・そして、全力で付き合っていくという姿勢を見せないと信頼関係は生まれない。
・ケアマネはとても大事な存在であり、コネクターのようなつなぎをする役目である。そして、情報を一番管理できる人なので、いろんな人に情報を入れてほしい。
・医者として、目の前にいる患者だけでなく、家族の思いなども聞くようにしているが、充分ではない。特に遠方に家族がいたりすると、こちらの思いが届きにくいこともあるので、皆で協力して患者や家族に寄り添うような支援が出来たらと考えている。

取組の成果

①在宅医療に関する課題について、医師会員の中では、改めて認識を深め、何とかしないといけないという機運が出ている

②訪問診療を新たに開始したり、エリア拡大された医師が出てきた。
訪問診療を受けにくいエリアの解消（ネックは24時間体制の確保と各種の申請行為と訪問診療をする上での細かい疑問や不安だった。）

ここを押さえればOK!

③これから、訪問診療を開始する意思をお持ちの先生も出ている。

④会員（医師）間のフラットな横連携の場が確保できた。

⑤済生会江津総合病院のまめネット機能拡充（出力項目・診療予約）

⑥ケアマネや訪看との医療との情報共有が進んだ

⑦かかりつけ医制を進める機運上昇

⑧地域開業医同士の意見交換の場の定着化

⑨済生会病院を支えることが地域医療の維持につながるという地域開業医の思いが表面化してきている。

江津市地域包括ケアシステムの連携イメージ(今後の体制づくりに向けて)

2020～

地域医療連携
推進法人

済生会江津総合病院

訪問看護

江津市医師会

在宅医療に取り組む診療所

連携・支援

在宅医療介護地域支えあい事業

Ⅰ 「病診連携によるかかりつけ医定着事業
①かかりつけ医推進戦略事業
②「GO TUなぎ在宅システム」

Ⅱ 「地域丸ごと重症化予防」
①再入院を繰り返す心疾患患者(バリューケース)分析
②各種データー活用による江津地域分析

Ⅲ 「まめネット機能拡充・普及啓発事業」
①機能拡充事業
②カード利用者及び加入機関拡充のための普及啓発

在宅医療介護連携支援センター
- **相談**
- **医療・介護シート**
- **多職種連携研修会**
- **地域資源調査**

看護小規模
多機能

医療連携推進コーディネーター事業
- **医師会員意見交換会**
- **顔なじみになる会**
- **医療機能調査**

ケアマネ部会

在宅医療介護連携協議会(年3回)

浜田保健所

連携・支援

江津市

課題及び取組むべきこと(1)

①江津市全体での地域包括ケアシステム構築に向けた体制整備
- 済生会江津総合病院を「在宅医療介護の中核的存在」に位置付けるための基盤作り（担当業務意識から病院が担う意識へ）
- 病院の患者を中心とした視点から地域における病院の位置づけを意識した各部門との連携体制

②ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ事業は担当者個人が行う事業ではなく、質の高い在宅医療提供体制の構築を目指していることを意識

③病院内及び病院・行政・医師会・介護部門との協議体制の確立

④3年先を見込んだ取り組みの必要性

⑤江津で住み続けることができる地域づくりを目指す。

課題及び取組むべきこと(2)

⑥「訪問診療医師会員意見交換・勉強会」の場を活用し、垣根を超えた医師間の関係づくりを進める(開業医だけでなく、院内医師も含む)。
訪問看護師等との意見交換を行い、訪問看護の活用推進を狙う。

⑦ケアマネと医師とのコミュニケーションを深める
- 連絡しやすく、用件が伝わりやすいようなツール活用
- 先生と顔なじみになる会開催

⑧「在宅医療介護地域支えあい事業」の展開により、質の高い在宅医療介護の提供体制の構築とセルフケア体制の構築を目指す。

⑨病診連携によるかかりつけ医定着、24時間体制確保のための「在宅医紹介システム」「看取り代診医紹介システム」「まめネット機能拡充による連携性の向上」など